

# 春です! 予防が始まりますよ

フィラリア

ノミ・マダニ

狂犬病予防



## ワンちゃん

**フィラリア予防**には、例年どおり錠剤タイプのものとお肉の固まりチュアブルタイプのものを用意しています。投薬の前に血液検査を行います。

**ノミ・マダニの予防**には、フロントラインスポット（首筋に液体をつける）を用意しています。

**狂犬病の注射**の時には、愛犬手帳を持参して下さい。紛失した場合、豊川市は再発行できますので言って下さい。（豊橋市は再発行できません）

家ではおとなしいけど、病院に来ると怒ってしまうワンちゃんは、お家から口輪をしてもらうのもいいかもしれませんね。写真のように、プラスチック製の口輪が苦しくなくて安心です。市販でも購入できますし、当院にも置いてありますのでご相談下さい。



## ネコちゃん

**フィラリア・ノミ・ミミヒゼンダニ（耳ダニ）・回虫（おなかの虫）**の4つが予防できるレボリューションという首筋につける液体を用意しています。（ワンちゃんにも同様のお薬はありますが、フィラリアの感受性が高いことで確実に服用させる飲み薬にしています）

**ノミ・マダニの予防**だけでよいという方は、従来どおりフロントラインスポットも用意していますので、ご相談下さい。

## フェレット

**フィラリア予防**には、チュアブルタイプのもので粉薬を用意しています。

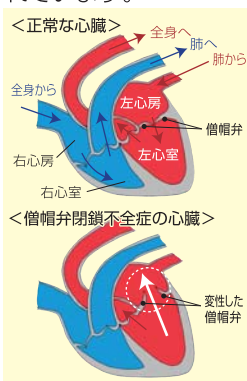
例年、土曜日の診察は組み合わせます。平日（特に午前中）にご来院いただくと、比較的スムーズに診察ができると思います。

What  
動物の病気

# 僧帽弁閉鎖不全症

**僧帽弁閉鎖不全症**（そうぼうべんへいさふぜんしやう）とは、心臓病のひとつです。心臓は、右心房（うしんぼう）、右心室（うしんしつ）、左心房（さしんぼう）、左心室（さしんしつ）という4つの部屋に分かれています。

そして、各部屋を分ける片開きの「ドア」があります。この「ドア」のことを「弁」といいます。左心房と左心室の間の大きな弁を僧帽弁（そうぼうべん）と呼んでいます。この僧帽弁には、左心室の血液が左心房に逆流しないようにする重要な役割があります。この弁の一部または全部が年齢とともに変性して（形が変わって）ぴったりと閉じなくなり、逆流してしまうことを僧帽弁閉鎖不全症といえます。



## 症状

- 1番わかりやすいのは咳（せき）です。ワンちゃんの咳は、人間と咳とは聞こえ方が異なるので、咳だと気づかずに過ごしてしまいがちなのが現状です。

### ワンちゃんの咳

- のどに何かひっかかった様な仕草をする。
- 吐きそうだけど、吐かずに苦しそう。（実際に食べ物や液体を吐くこともある）

- 運動を嫌がり、散歩の途中ですわり込む。
- 食欲低下
- 進行すると、呼吸困難（舌などが紫色[チアノーゼ]になって苦しそう）になり、失神する。



## 治療

- 血圧を下げたり、心臓の筋肉が拡大するのを抑えたり、心臓の保護薬を服用して、病気の進行を抑える。
- 塩分を控えた心臓病用のフードにする。（塩分が多いとのが乾き、水を飲む量が増える。そうなれば血流量が増え、心臓へ負担がかかる。）
- 太っているワンちゃんは、心臓への負担が大きいので減量する。

**家庭**での注意として、あまり興奮させないことです。散歩時で、他のワンちゃんとお会いする場合は、他のワンちゃんが少ない時間帯に散歩する必要もあります。

**どんなワンちゃんでも**（特に小型犬）起こる病気です。早い場合は5～6歳から発現しますが、症状がはっきりと出るのは7～10歳頃といわれています。

**定期的な検診**で、早期発見を心がけましょう。

# 花粉症



**もし**、ワンちゃんやネコちゃんが、季節によって皮膚をかゆがったり、外耳炎がひどくなったり、鼻水や涙を流していたら、花粉症かもしれませんね。

## 症状

- 人の花粉症は、くしゃみ・鼻水・目のかゆみがほとんどであるのに対し、ワンちゃん、ネコちゃんは皮膚に症状が出る事が多いようです。

## 検査

- アレルギー検査（当院では92種類のアレルギーについて検査）を行っています。欠点として、費用が高いのが現状です。しかし、1度検査をして、アレルギーが何なのか知っておくと、その草・木をさけて散歩をすることによって症状の改善がみられます。調べた草・木の写真を一緒にお渡しするので、それを見ながら散歩コースを決めていただいてもいいと思います。同時にこの検査で、食物に対してのアレルギーも知ることが出来るので、アレルギーを含まないフードに変えることもできます。

## アレルギー発症の傾向

- ワンちゃんも、ネコちゃんも少なからずアレルギーを持っています。ただし、一定の量を超えなければ、症状（かゆみなど）が出てきません。症状として出てしまった場合、生活環境中のアレルギーを除去していくことで、症状の改善がみられます。

